

# 補装具装用訓練等支援事業

対象種目：重度障害者用意思伝達装置

## 令和3年度 成果報告書

実施機関 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団

令和4年6月

## 目 次

1. 本事業で装用訓練等を実施した補装具の種類	2
2. 事業の目的及び要旨	2
2-1. 本事業の目的(実施要項より)	2
2-2. 横浜市リハビリテーション事業団の本事業受託目的	2
2-3. 事業の概要	3
3. 事業の実施内容	4
3-1. 本事業の対象者	4
3-2. 本事業で購入等をした補装具の種類とその数量	6
3-3. 本事業の実施機関における実施体制	7
3-4. 事例紹介	10
3-5. フォローアップ状況	14
3-6. 研修会等への参加状況	15
4. 事業実施の考察	17
4-1. 本事業で得られた成果	17
4-2. 補装具装用訓練のあり方について	17
4-3. 今後の取り組み	19
5. 参考資料	
令和3年度意思伝達装置相談全事例	20

## 1. 本事業で装用訓練等を実施した補装具の種類（該当するいずれかに☑）

小児筋電義手      重度障害者用意思伝達装置

## 2. 事業の目的及び要旨

### 2-1. 本事業の目的（実施要項より）

補装具費は、当該補装具の操作性・習熟度が一定のレベルに達したときに支給申請および支給決定されるが、「重度障害者用意思伝達装置」（以下、意思伝達装置）は、操作性及び習熟度の向上を目的とした訓練（装用訓練）過程において、当該訓練に用いる機器に関し、病院やリハビリテーション施設の負担、または、補装具事業者からの貸出等により実施されている現状がある。また、当該補装具の引き渡し後においても、身体の成長や症状の進行に応じて適切なフォローアップが必要であるが、その実施状況は病院やリハビリテーション施設等の実施機関によって異なっている。

本事業では、意思伝達装置を対象種目として、装用訓練のための機器に係る費用や訓練の実施、知識・技術を習得するための研修等に係る費用を支援することにより、これらの装用訓練等を提供できる病院やリハビリテーション施設の普及を推進することを目的とする。

### 2-2. 横浜市リハビリテーション事業団の本事業受託目的

横浜市リハビリテーション事業団では、装用訓練等を提供できる病院やリハビリテーション施設の普及のために、①意思伝達装置の装用訓練マニュアルの作成、および②意思伝達装置の導入支援に関わる方向けの研修マニュアルの作成を本事業の目的とした。

#### ① 装用訓練マニュアル

横浜市リハビリテーション事業団が運営する横浜市総合リハビリテーションセンターは、同じ建物内に併設された、横浜市障害者更生相談所（以下、更生相談所）と連携して、意思伝達装置を含む補装具装用訓練を実施している。この意思伝達装置の導入支援の内容を補装具費の支給プロセスにそって、他職種協働の視点から装用訓練の内容を整理し、装用訓練の準備、方法、留意点を具体的に示したマニュアルを作成する。

#### ②意思伝達装置の導入支援者向け研修マニュアル

研修の対象は、行政（区役所）のケースワーカー、介護支援専門員、訪問リハビリテーションに関わる作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等とし、研修会の実施を通して補装具費支給制度及び意思伝達装置の理解とともに装用訓練マニュアルを活用した研修実施のマニュアルを作成する。

## 2-3. 事業の概要

### ① 装用訓練の実施

横浜市総合リハビリテーションセンターでは、医師、理学療法士、作業療法士、リハ工学士（※）などのリハビリテーション専門職が障害児・者の居宅を訪問し、住宅改修、福祉用具、機能訓練、介助法指導などを行う在宅重度障害者等訪問リハビリテーションサービス事業（以下、在宅リハサービス事業）を実施している。福祉用具の一つである補装具は、必要に応じて在宅リハサービス事業において提供されているが、重度障害者用意思伝達装置（以下、意思伝達装置）は、使用する環境の評価及び訓練が給付決定において必要であり、装用訓練は、この在宅リハサービス事業で実施している。

※リハ工学士 リハビリセンターなどの医療機関や福祉機器メーカーなど、リハビリテーション関連領域の臨床場面で働いている工学技術者の総称。機械・電気・建築などの専門知識を持ち、車椅子の設計・処方や、住宅改修へのアドバイスを行う。意思伝達装置においては、電気系のエンジニアが担当し、機器の準備・調整、操作説明や業者との連絡調整などを行っている。

### ② 装用訓練マニュアルの作成

装用訓練実施の記録、装用訓練に関わった横浜市総合リハビリテーションセンターの作業療法士、ソーシャルワーカーとリハ工学士への聞き取りをもとに、装用訓練の準備、方法、留意点をまとめて装用訓練マニュアルを作成した。

### ③ 研修会の実施

補装具支給に関わる横浜市各区役所関連機関、および装用訓練に関わる訪問リハ、訪問看護のスタッフに対する研修会を2回行った。横浜市各区役所のソーシャルワーカーを対象にした横浜市障害者更生相談所主催の「補装具制度の理解」研修会に講師を派遣し、意思伝達装置の説明を行った。また、当事業団主催の訪問看護スタッフ研修の中で、意思伝達装置の説明と機器体験を行った。

### ④ 装用訓練研修マニュアルの作成

上記2回の研修会と、過去に行った研修会の内容を精査して、研修対象者や研修目的に沿った配布資料例を添付した研修マニュアルを作成した。マニュアルには、研修会で伝えるべき内容だけでなく、研修会の運営方法のヒントなどを含めた。②の装用訓練マニュアルと合わせて、研修会を実施する際の手引書となるように1つのパッケージとして公開するようにした。

### 3. 事業の実施内容

#### 3-1. 本事業の対象者

本事業対象者は、平成30年から令和2年まで3年間さかのぼり、意思伝達装置の装用訓練を実施した事例についてのカルテ調査、および本年度（令和3年度）の訓練事例の2つの部分からなる。過去3年間については、意思伝達装置に関する全相談件数120件のうち14事例を抽出した。令和3年度については、全相談件数44件のうち装用訓練を27件実施し、うち9ケースを抽出した。合計23ケースである。年齢、疾患等は以下の表のとおりである。

病気の進行や、ニーズの変化などに伴って、同一の対象者に複数回関わることが多く、本年度は5名に複数回の訓練が実施されている。

装用訓練事業対象件数

年度	意思伝達装置のべ相談件数	装用訓練のべ実施件数	本事業対象件数
平成30年～令和2年	120	46	14
令和3年 (本事業年度)	44	27	9

平成30年度～令和2年度事例詳細（14事例）

番号	年度	性別	年齢	疾患	導入本体	導入入力装置
1	H30	女	32	脳腫瘍	OriHime	視線検出式
2	H30～R2	女	45	ALS	TC スキャン	接点式 視線検出式
3	H30	女	66	ALS	TC スキャン	接点式 視線検出式
4	R1	女	36	ALS	MCTOS	(生体信号)
5	R1	女	51	ALS	TC スキャン	視線検出式
6	R1	男	57	ALS	MCTOS	(生体信号)
7	R1	女	72	ALS	TC スキャン	視線検出式
8	R1	男	52	ALS	OriHime	視線検出式
9	R2	男	47	ALS	TC スキャン	視線検出式
10	R2	女	51	ALS	TC スキャン	視線検出式
11	R2	男	59	ALS	OriHime	視線検出式

番号	年度	性別	年齢	疾患	導入本体	導入入力装置
12	R2	男	62	ALS	OriHime	視線検出式
13	R2	女	69	ALS	MCTOS	(生体信号)
14	R2	女	75	ALS	TC スキャン	視線検出式

導入（意思伝達装置）本体名称は次頁 3 - 2 および別冊の装用訓練マニュアルを参照のこと

導入入力装置名称は別冊の装用訓練マニュアルを参照のこと

### 令和 3 年度事例（9 事例）

番号	年度	性別	年齢	疾患	導入本体	導入入力装置
9	R3	女	74	ALS	導入済み	視線検出式
10、11	R3	女	54	ALS	TC スキャン	視線検出式
18、19	R3	女	42	CVA	伝の心	空気圧式
20、21	R3	男	70	ALS	TC スキャン	視線検出式
31、32	R3	女	51	ALS	TC スキャン	視線検出式
34	R3	女	64	ALS	TC スキャン	視線検出式、空気圧式
36、37	R3	男	56	ALS	OriHime	視線検出式
43	R3	男	56	CVA	TC スキャン	圧電素子
44	R3	男	77	ALS	TC スキャン	視線検出式

事例番号は巻末の参考資料を参照

### 本事業対象者数、年齢、障害の状況等

年度	人数	平均年齢	最低年齢	最高年齢	備考
H30～R2	14	55.3	32	75	うち ALS 92.8%
R3	9	60.4	42	77	うち ALS 77.8%

疾患名の略称 ALS (Amyotrophic Lateral Sclerosis: 筋萎縮性側索硬化症)

CVA (CerebroVascular Attack: 脳血管発作)

CP (Cerebral Palsy: 脳性麻痺)

MSA (Multiple System Atrophy: 多系統萎縮症)

MD (Muscular Dystrophy: 筋ジストロフィー)

### 3-2. 本事業で購入等をした補装具の種類とその数量

品名	数量
意思伝達装置本体	
miyasuku EyeConSW (*)	1
OriHime eye + Switch (*)	1
MCTOS Model FX	1
ファイン・チャット	1
TC スキャン (*)	1
トーキングエイドプラス S パッケージ	1
入力装置	
視線検出式入力装置 PCEye 5 (*) の本体 3 台にそれぞれ同梱)	3
帯電式入力装置 ポイントタッチスイッチ	1
呼気式 (吸気式) 入力装置 ブレスマイクスイッチ	1
空気圧式/圧電素子式入力装置 PPS スイッチ	1
固定具	
入力装置用固定具 スタンダードアーム	1
意思伝達装置本体固定用スタンド アシスタンド 3	1
意思伝達装置本体固定用スタンド マルチスタンド	1
呼び鈴 ユアコール	1
呼び鈴分岐装置 ブンキングボックス	1
呼び鈴 EYE コール	1

### 3-3. 本事業の実施機関における実施体制

横浜市では、意思伝達装置の装用訓練を受けるために、以下のような手続きが必要である。補装具費支給申請の前に、居住地または住民票のある区役所へ相談し、訓練機関の紹介を受け、区役所または当事者・家族から訓練機関が依頼を受けて実施する。

#### 意思伝達装置の補装具判定の流れと役割分担

	時期	訓練内容
装用訓練手続き	相談	障害当事者・家族から市町村への相談 市町村などから障害当事者・家族へ装用訓練実施機関の紹介
	装用訓練	市町村または障害当事者・家族から装用訓練実施機関へ訓練依頼 装用訓練実施機関は関係機関と連携し訓練を実施
	結果報告	装用訓練実施機関は訓練結果を依頼元へ報告
補装具判定の流れ	申請	障害当事者・家族から市町村への申請 市町村担当者から更生相談所へ補装具の判定依頼
	判定	更生相談所は訓練結果を踏まえ補装具支給について判定 判定結果について市町村に報告
	支給決定	市町村は障害当事者・家族へ支給決定を通知
	見積・納品	障害当事者・家族は業者に見積依頼 業者は障害当事者・家族へ納品 障害当事者・家族は操作確認 装用訓練実施機関は、納品や操作確認に立ち会うことが望ましい。
	フォローアップ	業者は納品後の不具合があれば対応 装用訓練実施機関は、使用状況、身体機能の変化、介護者状況の変化をフォローすることが望ましい。

### 実施機関

(社福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター

	氏名	役職・職種	担当する内容
1	桑田哲人	研究開発課担当課長、作業療法士	事業統括
2	山崎哲司	地域支援課長、理学療法士	事業支援
3	河田治朗	総務課長、事務	事業事務統括
4	加藤広樹	総務課、事務	事業事務
5	池谷麗子 を含む6名	地域支援課、作業療法士	身体機能・ニーズ評価、 機器適合
6	直林祐美子 を含む5名	地域支援課、ソーシャルワーカー	ニーズ評価、機関連携、訪 問調整
7	藤記拓也 を含む2名	研究開発課、リハ工学士	機器適合
8	畠中 規	研究開発課、リハ工学士	事業事務補助
9	沼田一恵	研究開発課非常勤、作業療法士	事業事務補助

### 事業の協力機関

	機関名	サービス内容	職種	担当する内容
1	横浜市障害者更生相談所	補装具事務	ケースワーカー	補装具事務、判定
2	区役所	補装具事務	ケースワーカー	補装具事務、判定
3	福祉用具業者 ダブル技研(株) (株)クレアクト 企業組合S.R.D (株)テクノスジャパン	補装具販売、 設置、保守		意思伝達装置 販売設置 保守



訓練の対象者を担当するソーシャルワーカーやリハ工学士から、制度利用の概要や、意思伝達装置の取り扱い方などをそれぞれ学んでいる。

#### ②外部医療機関等との連携状況 主治医、施設担当者等との連携

装用訓練チームの担当ソーシャルワーカーは、訓練前の情報収集の際に、障害当事者と家族からのニーズの聞き取りと、主治医や医療機関のMSW（医療ソーシャルワーカー）、作業療法士、理学療法士などと連携を取り、訓練に必要な本人の医療情報を入手する。入院中であれば、訓練を先方の医療機関に訪問して実施する場合があるので、了解をとり、必要に応じて先方の訓練スタッフも立ち合いの下で訓練を行えるように調整する。

障害当事者が自宅ではなく施設入所の場合には、施設職員との連携を必要に応じて行う。

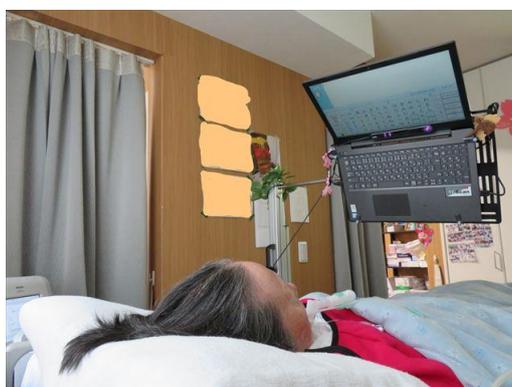
### 3-4. 事例紹介

令和3年度に意思伝達装置の装用訓練を実施し、補装具費支給制度を利用して装置を導入した9事例とその対応経過を以下に示す。平成30年度から令和2年度までの14事例については、内容を分析し、装用訓練マニュアルの作成にあたっての参考事例とした。

#### 令和3年度事例（9事例）

##### 網掛けが装用訓練の訪問

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
9	女	74	ALS			呼び鈴 呼び鈴分岐装置
訪問日	訪問内容					
2021/4/28	判定＋装用訓練1回目 圧電素子→視線検出式に入力方法を変更 視線検出式に対応した呼び鈴＋呼び鈴分岐装置を導入 すでに意思伝達装置（本体）は前年度に導入し使用中					



事例9 視線入力操作の様子

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
10、11	女	54	ALS	TC スキャン	視線検出式	本体支持具
訪問日	訪問内容					
2021/9/14	装用訓練 1 回目 文字入力操作					
2021/9/17	装用訓練 2 回目 環境制御 機器貸し出し					
2021/9/24	貸し出し機器回収					
2021/9/30	装用訓練 3 回目 文字入力+環境制御					
2021/10/11	判定のための動画撮影					
2021/10/12	動画を確認して判定（訪問や来所なし）					
2021/12/21	納品					
2022/1/18	フォローアップ訪問 使用方法説明、設定変更					

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
18、19	女	42	CVA	伝の心	空気圧式	
訪問日	訪問内容					
2021/7/19	病院入院中にコミュニケーション手段の相談のための訪問					
2021/8/12	ホスピス転院後に装用訓練 1 回目 入力装置評価					
2021/8/31	装用訓練 2 回目 入力装置評価					
2021/9/6	装用訓練 3 回目 入力装置評価					
2021/9/17	装用訓練 4 回目 意思伝達装置 操作訓練					
2021/9/24	装用訓練 5 回目 意思伝達装置 操作訓練 車椅子座位で					
2021/9/30	判定のための訪問					
2021/11/9	装用訓練 5 回目 入力装置用支持具の検討					
2021/11/18	装用訓練 6 回目 入力装置用支持具の検討					
2021/12/6	納品					
2021/2/1	フォローアップ訪問 スイッチ位置調整					
2021/2/28	車椅子座位での操作用入力装置用支持具納品（自費購入）					

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
20、21	男	70	ALS	TC スキャン	視線検出式	本体支持具
訪問日	訪問内容					
2021/9/16	装用訓練 1 回目 3機種操作比較 メニュー選択と文字入力					
2021/11/5	装用訓練 2 回目 メニュー選択と文字入力、環境制御、LINE 操作 1 月納品					



事例 20、21 装用訓練中 本体支持具を使用 要確認

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
31、32	女	51	ALS	TC スキャン	視線検出式	
訪問日	訪問内容					
2021/11/19	フォローアップ訪問で意思伝達装置のニーズ相談					
2022/1/6	意思伝達装置の装用訓練 1 回目 メニュー選択と文字入力					
2022/3/3	意思伝達装置の装用訓練 2 回目 環境制御機能の操作					
2022/3/8	見積のための訪問 その後納品され 5 月までフォローアップ訪問					

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
34	女	64	ALS	TC スキャン	視線検出式 空気圧式 (自費)	本体支持具
訪問日	訪問内容					
2022/1/13	意思伝達装置の装用訓練 1 回目 文字入力 (車椅子座位)					
2022/2/18	医師、SW 交えた機能評価と判定					
2022/3/17	意思伝達装置の装用訓練 2 回目 文字入力 (ベッド上臥位)					



事例34 装用訓練中 意思伝達装置の設定調整



事例34 装用訓練中 空気圧式入力装置

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
36、37	男	56	ALS	OriHime	視線検出式	
訪問日	訪問内容					
2022/1/27	フォローアップ訪問で意思伝達装置のニーズ相談					
2022/2/15	装用訓練1回目 2機種操作比較 メニュー選択と文字入力					
2022/2/24	判定のための訪問 その後納品され4月に確認訪問					



事例36、37 視線入力操作の意思伝達装置の装用訓練中

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
43	男	56	CVA	TC スキャン	圧電素子	
訪問日	訪問内容					
2021/12/23	コミュニケーション手段の相談のための訪問					
2022/1/27	意思伝達装置の入力方法検討のための装用訓練 視線検出式/圧電素子式					
2022/2/17	装用訓練2回目 2機種操作比較と環境制御機能の操作					
2022/3/2	判定と見積のための訪問 その後納品され5月までフォローアップ訪問					

事例番号	性別	年齢	疾患	本体	入力装置	周辺機器
44	男		ALS	TC スキャン	視線検出式	遠隔制御装置
訪問日	訪問内容					
2021/9/17	判定ため施設に訪問					

### 3-5. フォローアップ状況

令和3年度の事例では、9事例のうち7事例で意思伝達装置の導入後にフォローアップを実施していた。実施内容は様々で、年度を超えて導入した事例から、使用状況の確認、設定や入力装置の変更まで含まれていた。フォローアップの方法も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、訪問回数や訪問人数を最低限とするため、電話による家族への聞き取りをした事例も含まれている。

### 令和3年度事例（9事例）

事例番号	フォロー	内容
9	○	意思伝達装置導入済みで、ナースコールを視線検出式に変更 納品後に電話にて使用状況をフォロー
10、11	○	意思伝達装置導入後に車椅子座位操作用に入力装置追加
18、19	×	導入前に逝去
20、21	○	導入後にフォローアップ訪問
31、32	○	事業年度内に装用訓練・見積まで終了 翌年度に判定、納品、使用状況確認のフォロー実施
34	×	事業年度内に装用訓練、翌年度に納品
36、37	○	事業年度内に装用訓練・判定まで終了 翌年度に納品して終了
43	○	事業年度内に装用訓練・判定まで終了 翌年度に納品、使用状況確認のフォロー実施
44	○	意思伝達装置導入後に操作方法再説明や設定変更を実施

### 3-6. 研修会等への参加状況

装用訓練に関わるスタッフ、および関連機関に対する研修を行った。当センター主催の研修会は、横浜市内の訪問看護ステーションの理学療法士、作業療法士、看護師等に対してコミュニケーション支援全般について講義と体験実習を行い、その中で意思伝達装置を位置づけて、本事業で購入した最新の意思伝達装置や入力装置を使用した。若手や経験の浅い当センターの理学療法士と作業療法士がスタッフとして参加し、よい教育機会となった。

また、横浜市障害者更生相談所が主催した補装具制度に関する研修には、横浜市各区役所のソーシャルワーカーが参加し、補装具全体の説明の中で、意思伝達装置についても説明され、当センターのリハ工学士が意思伝達装置の展示とデモを担当した。

研修は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を十分に講じて実施した。研修マニュアルの完成に時間を要したため、実際の研修内容に反映されていないが、今後の研修会で利用し、内容を検証していく予定である。

日時	令和3年12月24日
タイトル	令和3年度 障害福祉支援者研修「補装具制度の理解」
主催	横浜市障害者更生相談所
対象者	横浜市各区役所ソーシャルワーカー
内容	制度説明 義肢・装具編
	義肢・装具の種類と機能（義肢・装具の展示）
	制度説明 重度障害者用意思伝達装置編
	重度障害者用意思伝達装置の仕組み（重度障害者用意思伝達装置の展示）
参加者	20名
スタッフ	リハ工学士が講師として参加

日時	令和4年1月15日
タイトル	訪問看護スタッフ研修
主催	横浜市総合リハビリテーションセンター
対象者	横浜市内各訪問看護ステーション 理学療法士、作業療法士、看護師等
内容	コミュニケーション支援全般
	重度障害者用意思伝達装置に関する制度説明と機器の説明
	重度障害者用意思伝達装置等の展示と体験
参加者	10名
スタッフ	理学療法士、作業療法士、リハ工学士が講師、スタッフとして参加



訪問看護スタッフ研修の様子（令和4年1月15日）

## 4. 事業実施の考察

### 4-1. 本事業で得られた成果

令和3年度、および平成30年から令和2年まで過去3年間、計4年間の意思伝達装置の装用訓練実施事例をまとめて、意思伝達装置の装用訓練の準備や手順、留意点をまとめた装用訓練マニュアルを作成した。

また、意思伝達装置の装用訓練のための過去の研修内容を精査して、さらに今年度、2回開催した研修会の内容を加えて、研修対象者や研修目的に沿った配布資料例を添付した研修マニュアルを作成した。マニュアルには、研修会で伝えるべき内容だけでなく、研修会の運営方法のヒントなどを含めた。装用訓練マニュアルと合わせて、研修会を実施する際の手引書となるようにした。

### 4-2. 補装具装用訓練のあり方について

#### ① 装用訓練の実施機関について

装用訓練を実施しているのは、主に作業療法士、リハ工学士の他に、事前の情報収集や訪問調整を行うソーシャルワーカー、身体機能評価や判定を行うリハビリテーション科医師などのリハ専門職で、リハ工学士の役割を業者が担う場合もある。そのため、装用訓練の実施機関は、これらのリハ専門職が予め配置されている医療機関、更生相談所、リハビリテーションセンターなどの機関が適している。

#### ② 実際の居宅での装用訓練の実施について

横浜市の在宅リハサービス事業により意思伝達装置の装用訓練は訪問で実施した。例えば筋萎縮性側索硬化症（Amyotrophic Lateral Sclerosis、以下ALS）のように、対象者の疾患の多くが発声・発語障害とともに、重度の移動障害を併せ持っていることから、訓練のための通院が困難であり、専門職が訪問する方が対象者に負担が少ない。また、入院先、施設入所先、自宅のいずれの場合でも、意思伝達装置が実際に使用される環境で、実際の設置状況を模擬的に再現して訓練を行うことが、正確な評価につながり、障害当事者や家族も、実感を持って訓練を行うことができる。意思伝達装置本体の支持具や、入力装置の支持具はどのタイプのものが適切なのか、それらをどこに固定するのか、あるいは、使用しない時はどこに保管しておくのか、など使用場所の環境を見ないと判断がつかないことがある。

#### ③ フォローアップの実施について

装用訓練終了後に意思伝達装置の適用があるとされた方は、区役所への制度利用申請、判定、納品からフォローまでの一連の流れがある。医師による判定の際は、装用訓練の状況を

再現するか、書面や口頭での聞き取りで確認することになるが、訓練に関わったスタッフが最も正確に判定医に報告できる立場にある。見積りや納品、操作確認では、訓練の際の留意点などを反映した機器の構成になっているか、予め想定していた操作姿勢や操作方法になっているのかなど、細かく確認することができる。フォローアップの際にも、病状の進行によって入力装置を見直す必要があれば、前回の経緯を把握している訓練実施機関へ再度装用訓練依頼をすれば、前回担当者や記録が残っているので、スムーズに対応が可能となる。実際に事例のほとんどが、装用訓練前の情報提供から継続的に関わっており、意思伝達装置の導入につながっている。

#### ④ チームアプローチ（地域の関係機関との連携）

装用訓練は、補装具費支給制度の流れの中で、適切な意思伝達装置を給付するプロセスの1つである。その前には、区役所への相談、後には、区役所への制度利用の申請、納品、フォローアップなどがあり、いずれも、障害当事者を日常的にサポートしている主治医の医療機関、区役所の地区担当ケースワーカー、保健師、ケアマネージャーや訪問PT、OT、ST、看護師など多くの機関との連携が必要となる。

装用訓練の準備の際には、障害当事者や家族だけでなく、障害当事者を日常的にサポートしている地域の関係機関への電話や書面による情報収集が必要になるが、装用訓練の訪問に地域の関係機関が同席することもたびたびある。本事業でも1事例平均7.2職種が関わっており、横浜市総合リハビリテーションセンターの装用訓練チーム以外に、関係機関の医療・福祉職などが加わっている。訓練に必要なメンバーではないが、障害当事者や家族から区役所に意思伝達装置の補装具費支給の申請がされたときに、申請書類を確認するだけでなく実際の訓練場面に同席しているので、適用の判断が付きやすい。また、地域の関係機関連携という意味では、障害当事者は、意思伝達装置の利用だけでなく、広範囲に及ぶ様々な福祉サービスを利用されているので、現状確認やフォローアップという意味合いでも重要になる。

#### ⑤ 最新の試用機器の確保

装用訓練に必要な意思伝達装置や入力装置、周辺機器の試用機器は、通常は業者から期間を決めて借りる。しかし、訪問や外来の日程に合わせて試用機器を用意することや、1週間程度の貸し出しを受けることは意外と難しい。複数の試用機器を持っている業者が少なく、遠方の場合には郵送費用や貸し出し費用が必要な場合もある。装用訓練の実施機関が複数台の試用機器を持っていることが望ましい。機器の貸し出し中に故障があった際に、タイムリーに修理を行うことは難しいが、試用機器を複数台持つておくと、予備機と交換を行うことができるので、装用訓練を継続することができる。装用訓練中に別の方への装用訓練を行う場合にも、複数台の試用機器があれば運用可能となる。

試用機器は最新のものを用意して装用訓練を行う。最終的な導入機器の選定の際に、障害

当事者が実際に試した機器が選ばれるが、例えば初期画面のデザインやレイアウトは、バージョンによって異なる場合があり、使い勝手に影響する。SNS を利用する希望があった場合、LINE などに対応する追加機能が付加できれば、障害当事者の機器の選択に大きく影響する。また、意思伝達装置がインストールされているパソコンの OS が古いとアップデートに対応できず、入力装置や周辺機器とつながらないなどの不具合が生じることがある。業者からの情報収集を定期的に行い、最新の機器を揃えておくことが重要である。

#### ⑥ 装用訓練スタッフの研修の必要性

装用訓練に関わるスタッフは、継続的に研修に参加することが望ましい。医療機関や市区町村の障害福祉窓口は、定期的に異動で担当者が変わる。補装具・意思伝達装置の件数は、平成 30 年度に全国で 730 件支給されている（厚生労働省 令和 2 年度厚生統計要覧より）が、医療・行政の担当者が補装具費の支給や装用訓練を経験している可能性は極めて低い。研修によって、意思伝達装置、補装具費支給制度、装用訓練について、広く周知して、装用訓練の適否の正しく迅速な判断と、適切な装用訓練の実施により必要な人に意思伝達装置が支給されるようにすべきである。その際、福祉職など直接訓練を実施しないスタッフにも機器の操作体験を研修のプログラムの中に位置づけることが重要である。

担当者が変わらなくても、意思伝達装置に使われている技術は日々向上しており、視線検出式入力装置のように、まったく新しい要素が追加されることもある。以上の理由から、継続的な研修参加が必要である。

### 4-3. 今後の取り組み

本事業の取り組み内容は、今後関係部署へ周知して、内容を確認していただくとともに、今後装用訓練チームに参加する方への研修の一助にしていきたい。地域の関連機関についても、作成したマニュアルを中心に周知して、装用訓練の事例が出た際に参照していただく。装用訓練は、常に評価技術をブラッシュアップし、新しい意思伝達装置や既存の製品のモデルチェンジの情報に追いつく必要がある。

意思伝達装置にたいする補装具費支給制度は 3 年ごとに見直しがされているので、制度の適用範囲、項目や金額に変更があれば、装用訓練にも影響がある。その際には訓練・研修マニュアルも制度改定を反映した改訂が必要となる。

令和 3 年度はコミュニケーション支援に関する相談 142 件の相談のうち 44 件が意思伝達装置の相談であり、さらに装用訓練を実施したのは 27 件だった。そこに至るまでに、情報提供などを丁寧に行った上で、ニーズの聞き取りを行って、訓練の対象者を絞り込んでいった。意思伝達装置の装用訓練の適用を判断する技術をさらに高めて、意思伝達装置を必要とする人に、できる限り迅速に供給できるようにすることが今後の課題である。そのためには、装用訓練に関わる訓練実施機関と関係機関のスタッフに対する研修を継続的に行うことと、地域の関連機関との連携を強化することが対応策となる。

## 5. 参考資料

### R3 ケース（意思伝達装置の相談全事例）

注：網掛けは本編3-4で紹介した事例

番号	性別	年齢	疾患	支援段階	本体	入力装置	周辺機器
1	女	72	ALS	装用訓練	OriHime	空気圧／圧電素子	無線式呼び鈴
2	女	72	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
3	女	56	CP	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
4	男	61	ALS	制度利用	TC スキャン	視線検出式	
5	女	53	ALS	フォロー	TC スキャン	視線検出式	
6	男	62	ALS	装用訓練	マクス FX	視線検出式	
7	同上			業者紹介	新心語り		
8	男	72	他	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
9	女	75	ALS	制度利用			呼び鈴／ 分岐装置
10	女	55	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
11	同上			装用訓練	TC スキャン	視線検出式	本体支持具
12	女	60	ALS	装用訓練	TC スキャン OriHime miyasuku	視線検出式	
13	女	57	ALS	制度利用	miyasuku	視線検出式	遠隔制御装置
14	女	53	ALS	情報提供	TC スキャン	視線検出式	
15	同上			装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
16	男	80	ALS	情報提供	OriHime 伝の心	視線検出式	
17	男	87	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
18	女	43	CVA	装用訓練	伝の心	接点式	呼び鈴
19	同上			制度利用	伝の心	空気圧／圧電素子	呼び鈴
20	男	71	ALS	装用訓練	TC スキャン miyasuku OriHime	接点式	
21	同上			制度利用	TC スキャン	視線検出式	
22	男	61	ALS	フォロー	(OriHime)		
23	女	68	ALS	フォロー	(TC スキャン)		

番号	性別	年齢	疾患	支援段階	本体	入力装置	周辺機器
24	女	58	MSA	装用訓練	TC スキャン OriHime	視線検出式	
25	男	60	ALS	自費購入	miyasuku PC 操作		
26	男	69	ALS	装用訓練	TC スキャン		
27	男	64	MSA	装用訓練	TC スキャン OriHime eeyes	視線検出式	
28	女	60	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
29	男	71	ALS	装用訓練	miyasuku	視線検出式	
30	女	62	ALS	装用訓練	eeyes	視線検出式	
31	女	53	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
32	同上			制度利用	TC スキャン	視線検出式	本体支持具 遠隔制御装置
33	男	67	ALS	情報提供	TC スキャン	視線検出式 接点式	
34	女	65	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式 空気圧	
35	男	71	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	
36	男	57	ALS	装用訓練	OriHime miyasuku eeyes	視線検出式	
37	同上			制度利用	OriHime	視線検出式	本体支持具 遠隔制御装置
38	男	30	CP	装用訓練	フライン・チャット		
39	女	47	ALS	情報提供			
40	男	57	ALS	情報提供	OriHime	視線検出式	
41	男	82	ALS	情報提供	TC スキャン	視線検出式	
42	男	31	MD	装用訓練	TC スキャン miyasuku	視線検出式	
43	男	57	CVA	制度利用	TC スキャン	圧電素子式	
44	男	78	ALS	装用訓練	TC スキャン	視線検出式	

意思伝達装置の導入を含むコミュニケーション支援全体の実績では、令和3年度は142件の相談のうち44件が意思伝達装置の相談

補装具装用訓練等支援事業  
対象種目：重度障害者用意思伝達装置  
令和3年度 成果報告書

---

社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団

〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1770  
TEL. 045-473-0666(代) FAX. 045-473-1299

令和4年6月30日